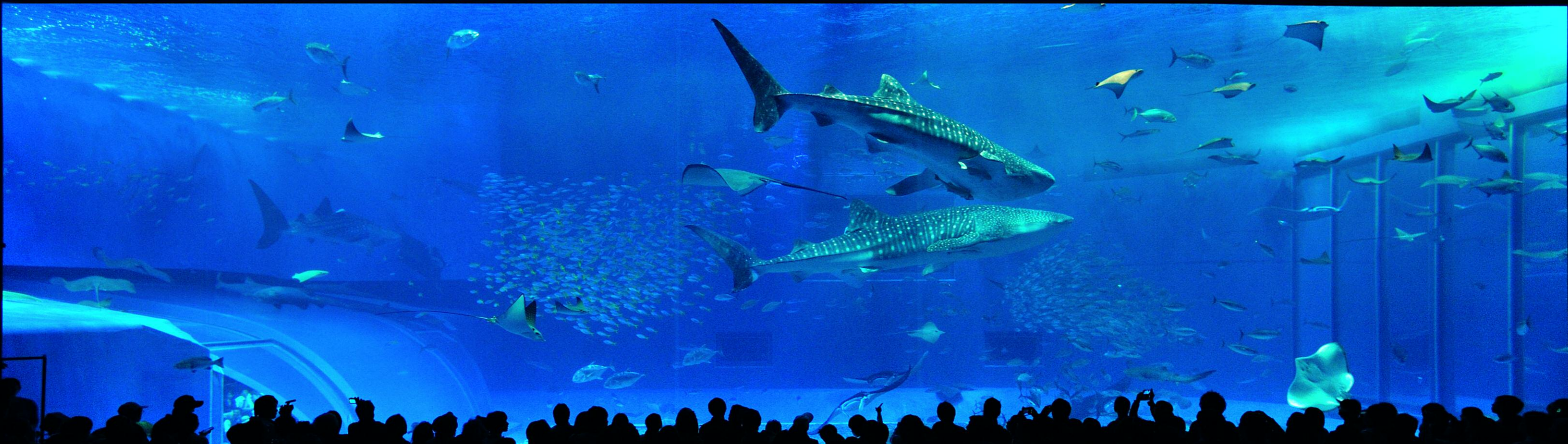


沖縄美ら海水族館の巨大水槽（黒潮の海）。容量は7500t（m<sup>3</sup>）。メインの柱なしのウィンドウは、高さが8m20cm、幅は22m50cmもある。見とれているのは観客だけではない。取材した我々も、合計で250回以上もシャッターを押してしまった。



## しびれる水族館

水族館は人生で3度行く所、  
と言われていたそうです。  
子どものときに、まず1回、  
親になって子どもと一緒に、  
そして3回目は孫と。

ところが、水族館は  
知らないうちに、大人をも  
しびれさせるような魅力あふれるスポットに  
転身を遂げていました。  
何度も足を運びたいくなる癒しの空間に  
なっていたのです。

新鮮な海の幸をいただく文化を持ち、  
四方を海に囲まれた島国、ニッポン。  
魚たちが生き生きと泳ぐ姿を見るのが大好きで、  
他国に抜き出た水族館好きだと  
言われていましたが、

近年の水族館ブームは、  
魚好きだけでは説明できないものがあります。

何人々々を水族館に惹きつけているのか。  
その秘密を探るために、  
久しぶりに、水族館に足を運んでみました。

水の文化 44号 2013年6月

### 特集「しびれる水族館」

沖縄 水と空の魅力 宮原弘和

日本の水族館とともに 鈴木克美

渴きを癒す水族館 中村元

マザーレイクと歩む琵琶湖博物館 金尾滋史

アクリルがつくる夢の器 敷山哲洋

マリニピア松島86年の歩み 西條正義

松島の幸と恵み 佐々木恵

ホームアクアリウムのすすめ 樋口理紗

鈴木将広

文化をつくるしびれる水族館 編集部

水の文化書誌 古賀邦雄

竜宮城への視点 陣内秀信

東京の隠れた里川 カナルカフェ 編集部

シリーズ「わたしの里川」

Go!Go!109水系

恩がある川 遠賀川

里川文化塾報告／予告

51

50

44

42

40

39

36

30

26

20

16

9

4